

10月24日9時00分 CRT スタジオで収録

## 大学入試総合型選抜、「志望理由書」「面接試験」対策の基本を考える

開倫塾

塾講 林明夫

Q1：なぜ大学は面接試験を行うのですか。

A：(1)「大学は、志望理由書の内容を確認するために、面接試験を行います」。大学共通テスト終了後の二次試験で、面接試験・論文試験を行う大学も、「志望理由書の内容を確認するために、面接試験を行う」大学が多いようです。



(2) ちなみに、大学院入試では博士課程前期（修士課程）、博士課程後期（博士課程）とともに、「研究計画書」の内容を確認するために「面接試験」が行われます。

(3) このように、大学の学部では「志望理由書」、大学院では「研究計画書」と、「なぜこの大学を志望するのか」「この大学院で何をどのように研究する計画なのか」を最重視して、入学試験の面接試験を行います。



Q2：大学が面接試験で一番知りたいのは何ですか。

A：(1)「この大学での教育にふさわしい準備ができているか」、  
 (2)「その教育を享受して、大学卒業後に活躍の舞台に立てるだろうか」この2つです。  
 (3) これらが、自分のことばで表現できるかです。



Q3：そのために一番重視すべきことは何ですか。

A：(1)「創業者の書いた本」をじっくり読み、「大学設立の理念（何のためにこの大学を作ったのか）をまずは理解すること」。と、同時に、「大学案内」を一字一句おろそかにしないで読み、「現在、この大学は何を目指し、どのような教育・研究をしているのか、卒業生はどのようなところで活躍しているのか」を、十分に理解することです。

(2) ①まずは、大学を創設した「理念」と「大学の目指す姿」を、十分に理解することが第一です。

②そのうえで、「では、自分はこの大学に入学し、何をどのように学んで、卒業後にどのような進路を目指したいのか」

③「どのような仕事に就き、どのような社会的な活動をし、どのような人生を歩みたいのか」



(3) ①これらを、自分の力でじっくり考え、自分の考えを自分のことばでまとめることが大切です。

②自分の考え（思考）を文章にまとめる（言語化）、自分のことばで「志望理由書」に書き表すことが、求められます。

Q 4：まとめて言うと何ですか。

- A：（1）大学創始者の考え（大学設立の理念）を知ったうえで、大学がどのようなものを準備しているのか（カリキュラム）と大学の目指すもの、卒業生の活躍の場を「大学案内」で理解する。
- （2）では、自分は、この大学で何をどう学びたいのか、卒業後にどうしたいのかを、真剣に考える。考えたこと（思考）を、自分のことばで表現（言語化）する。
- （3）これが、「志望理由書」です。

Q 5：このほかに行うべきことは何かありますか。

A：あります、たくさんあります。

- （1）①第一は、新聞を毎日 30 分以上読み、今、世界や日本、地域で何が起きているのかを知ること、現代社会の課題、これからの社会の課題を考えること。
- ②できれば、興味関心のある分野について、新聞記事を切り取り、ノートに貼り付け、自分の意見を書きこみ続けること。
- ③「スクラップブック」を作ることです。
- （2）①第二は、自分の読みたい本、これぞという本、古典と呼ばれる本を、じっくりと腰を落ち着け、一語一句ゆるがせにしないで、ていねいに、最後まで読む。作者との「時空を超えた対話」を行うこと。
- ②そして、自分は何者かを考えること。
- ③できれば、気に入ったことばや文章を、ノートに書き写すこと。
- ④「書き抜き読書ノート」を作ることです。
- （3）①そして、「スクラップブック」と「書き抜き読書ノート」を繰り返し読みこむ。自分のものとする。
- ②これを、「志望理由書」に生かすことです。
- ③これを、「面接試験」に生かすことです。



Q 6：最後に一言どうぞ。

- A：（1）「面接試験」は、「志望理由書」に基づいて行われますので、「志望理由書」は、必ず何部かコピーしておくことです。
- （2）そして、入試直前まで、すみからすみまで何も見ないでいえるよう、しっかり暗記することです。
- （3）「創始者の本」、「大学案内」、「新聞」、「古典」、そして、「自分の書いた志望理由書」。この 5 つを、絶えずカバンの中に入れ、読み続ければ、必ず合格します。がんばってください。

